

これからの磐城 その3

磐城高校は、福島県高等学校改革計画では、前期計画の5年間の間は、学年7クラスを維持していくと思いますが、やがて、後期計画が発表されると、少子化の影響が及び、学年6クラスになるのは、間違いのないことだと考えます。単位制のカリキュラムにするのは、学年6クラスに対応して、様々な学習のニーズにこたえながら、生徒一人一人の学びの多様化と主体的対話的で深い学びを担保しつつ、教員団を現在の数を維持していく必要があるからだと考えます。

単位制においては、TTの授業を含め、教員の加配が認められます。教員団の数を維持しつつ、学びの魅力化を図るために、様々な工夫が可能となります。

また、部活動や様々な委員会の活動についても、学校内外のコンセンサスを取りながら、スマートな活動を構築する必要があります。その学校その学校ごとに、部活動なども特質化を進める必要があります。なぜなら、生徒数の減少と、指導者の充足との兼ね合いがあるからです。

もうすでに、市内のそれぞれの学校においては、学年2クラスの学校が増加し、部活動そのものが制限されております。できることが限られるのです。

全日制の市内の学校は、学年7クラスであるのは、磐城だけです。学年6クラスが磐城桜が丘、平工業、湯本、学年5クラスであるのが、平商業、いわき総合、いわき光洋、学年4クラスであるのが、いわき海星、磐城農業、勿来工業です。四倉、好間、小名浜、勿来、遠野は既に学年2クラスなのです。

中学校の生徒数も、徐々に減少していきます。0歳までの子供の数は、すでに明らかになっていきますので、これ以上学校規模を落とさないためにも、統合が進んでいくと考えます。

前期計画では、いわき海星と小名浜、湯本と遠野が統合する予定です。小名浜地区の中学生がワークショップ等を行って、これからの小名浜地区における魅力的な学校の在り方について、10月中に話し合う機会を作っていくそうです。小名浜という港を持った地域の学びの在り方について、建設的な意見が集約されることを期待します。

思うに、磐城高校においても、これからの魅力的な学校の在り方について、積極的に地域や保護者や生徒の皆さんから意見を頂戴していくことが重要です。そのことが、小学校での学びや中学校での学びの質の向上につながると、磐城高校の立つ位置も明らかになっていくと考えます。